



# 事業の経緯

## 浜名港の課題

- ・海洋レジャー志向の高まりによる  
プレジャーボートの急増
- ・浜名湖岸への無断係留・放置艇の増加

流出事故の危険性、景観阻害、  
漁業トラブル、沈廃船放置、  
ゴミ問題、駐車場問題 等々

平成8年度に「浜名湖船艇実態調査」を実施、係留施設の整備目標を設定。  
平成12年度に港湾事業により暫定係留施設を整備、不法係留船解消。  
平成24年度に恒久係留施設を整備し、暫定係留施設を撤去。

無秩序不法係留状態

第1段階：係留区域の設定



第2段階

：暫定係留施設の整備



第3段階

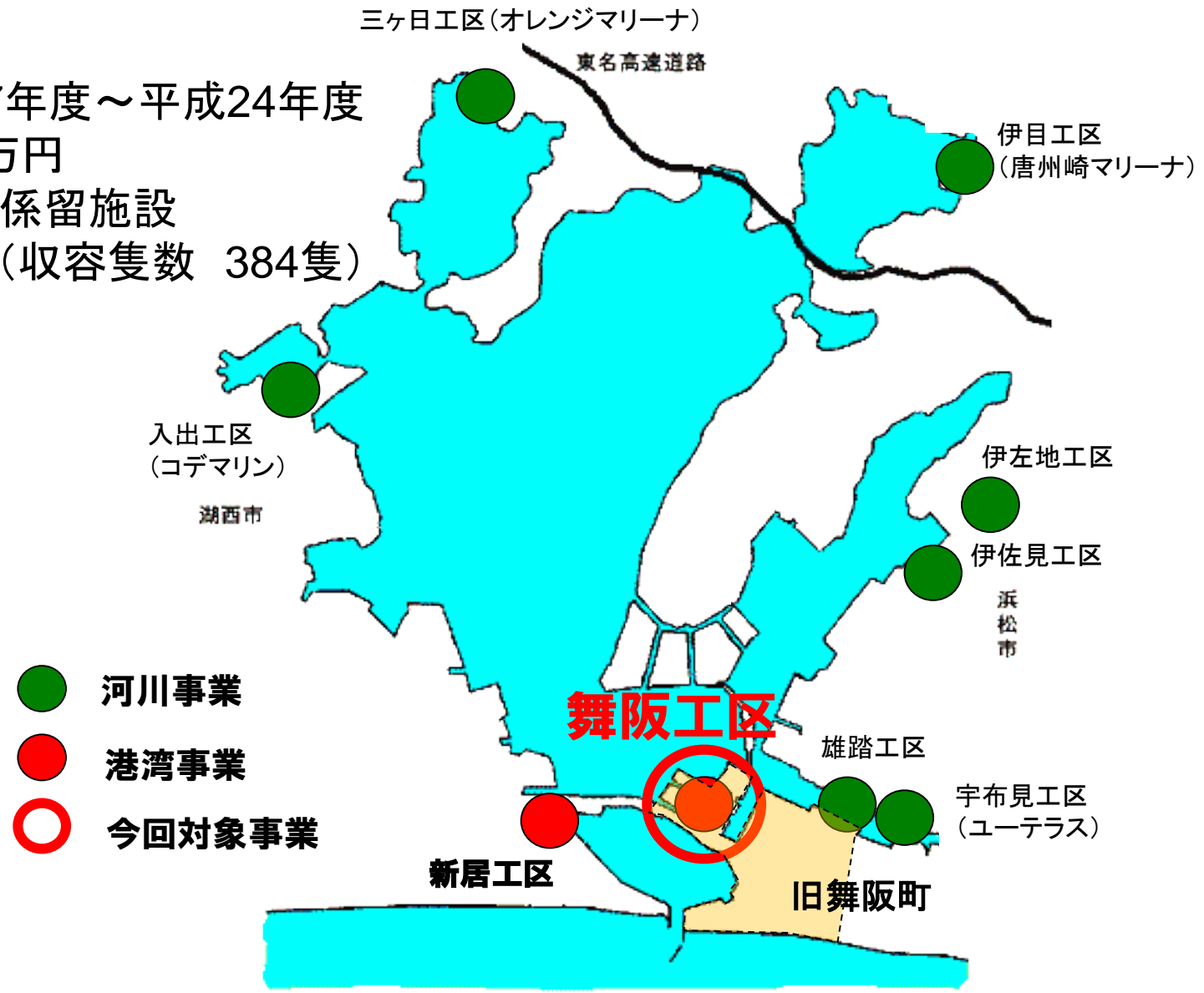
：恒久係留施設の整備



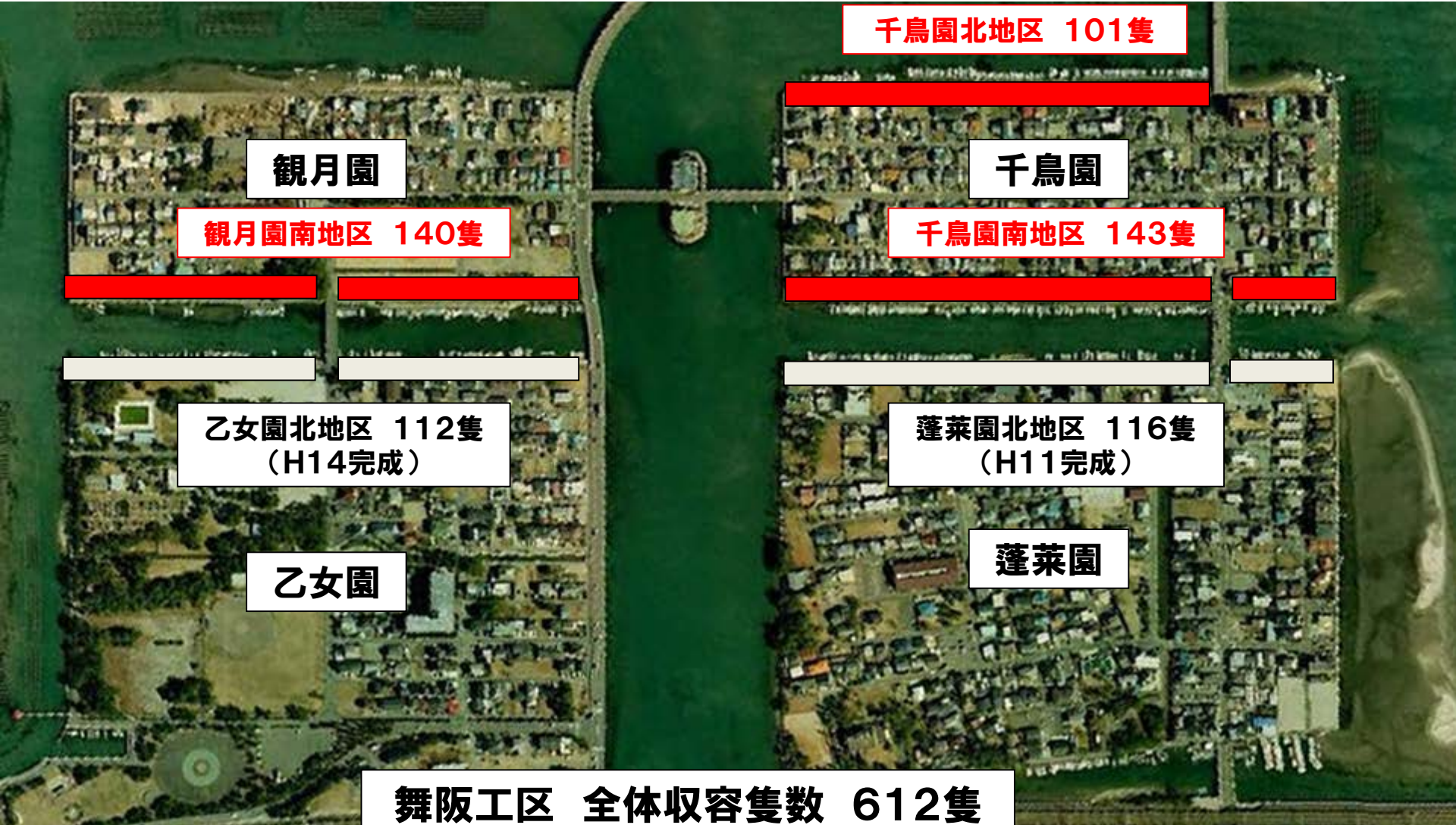
不法係留・放置艇が解消され事業効果が発現している。

# 係留施設の整備計画

事業期間：平成17年度～平成24年度  
事業費：1,041百万円  
事業量：舞阪PBS係留施設  
延長1,267m(収容隻数 384隻)



# 計画平面図



観月園

観月園南地区 140隻

乙女園北地区 112隻  
(H14完成)

乙女園

千鳥園北地区 101隻

千鳥園

千鳥園南地区 143隻

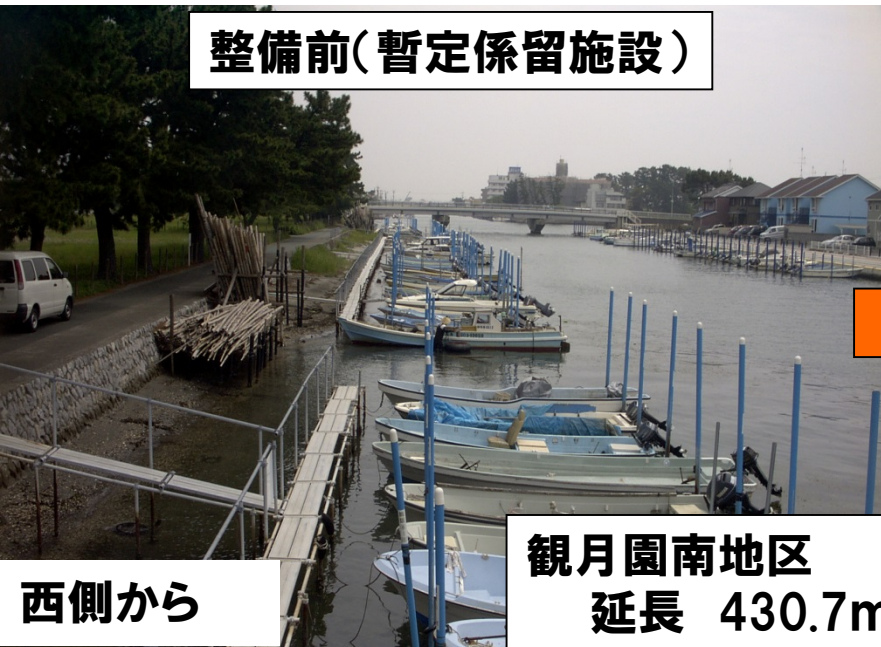
蓬莱園北地区 116隻  
(H11完成)

蓬莱園

舞阪工区 全体収容隻数 612隻  
(うち当該事業 384隻)

# 整備の状況

整備前(暫定係留施設)



整備後 (恒久係留施設)



観月園南地区  
延長 430.7m、 収容隻数 140隻

西側から



千鳥園南地区  
延長 469.8m、 収容隻数 143隻

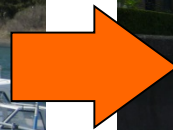
西側から

# 整備の状況

整備前(暫定係留施設)



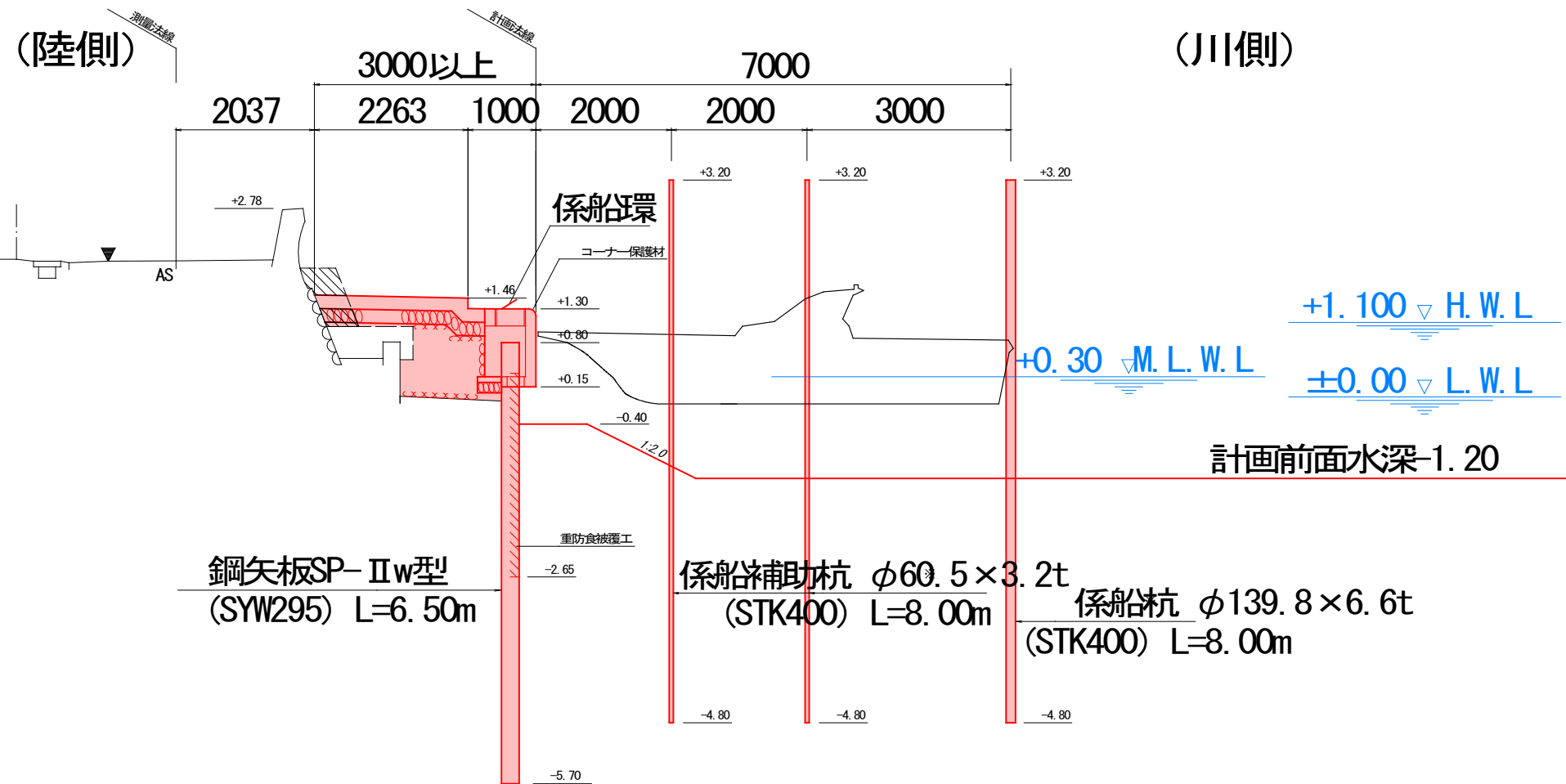
整備後 (恒久係留施設)



東側から

千鳥園北地区  
延長 375.5m、 収容隻数 101隻

# 標準横断面図



# 便益の考え方

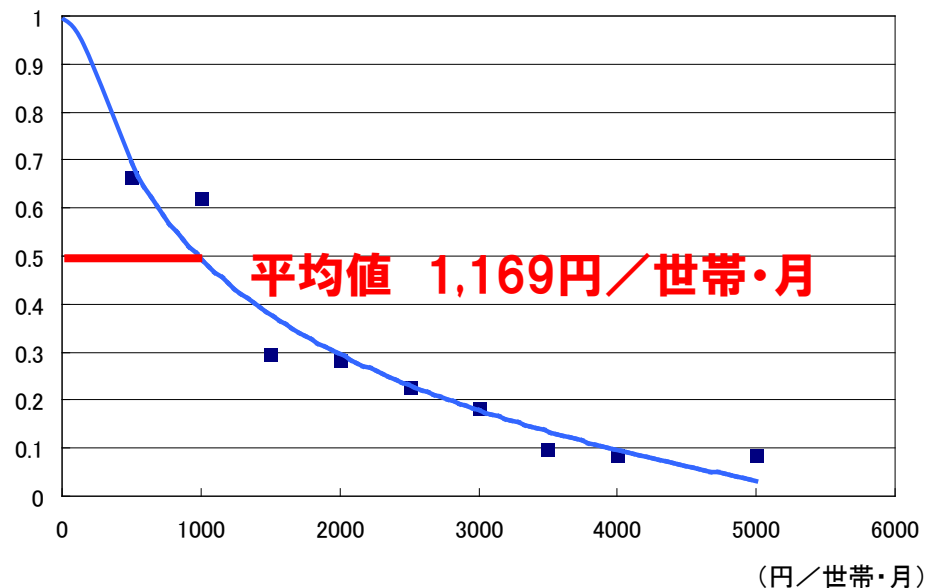
配布数：140  
有効回答数：71

## ①地域環境向上便益

係留施設整備により環境改善効果が及ぶと想定される背後町内（旧舞阪町の4,746世帯）を対象にCVMアンケートを実施

支払意志額：14,028円／世帯・年  
(1,169円／世帯・月)

(賛同率：%)



## ②使用料収入

静岡県港湾管理条例によりプレジャーボート係留施設の使用料を徴収する  
(便益として計上)

使用料収入：17,424千円／年  
(平均使用料：5,762円／月・隻)





## 費用対効果分析

**総費用(C) = 16.1億円(前回:11.7億円)**

- **事業費 14.1億円(前回:10.7億円)**
- **維持管理費 2.0億円(前回:1.0億円)**

**総便益(B) = 21.9億円(前回:19.2億円)**

- **地域環境向上便益 17.4億円(前回:13.0億円)**
- **使用料収入 4.5億円(前回:6.1億円)**

**総費用(C)に対する総便益(B)**

**$B/C = 1.36$ (前回:1.63)**

# 対応方針（案）

## （1）事業効果は十分に発現しており、改善の措置はない。

- ・係留施設を整備したことにより、不法係留船や放置艇が無くなったことにより、問題視されていた航行障害、沈没船の発生、ゴミの放置等が解消された。

## （2）今後の課題・対応

- ・係留施設利用者に対しては、駐車場やトイレの指定等、利用上のルールを周知するとともに自主的な啓発活動、美化活動への参加を促すよう努める。
- ・新たな不法係留船の発生等を防ぐため、海上保安署、警察などの関係機関の協力を得て、パトロールを実施していく。
- ・係留施設の空きスペースへの新規艇受入を実施し、不法係留艇の発生を未然に防止していく。

## （3）同種事業への反映等

- ・不法係留艇対策は、河川管理者と共通の課題であり、これら関係者と連携を図りつつ、また、浜名湖水域利用推進調整会議等により民間マリナー、地元住民等の関係者の合意や協力を得ながら事業を進めていくことにより円滑に行うことができた。
- 今後の同種事業についても、関係機関や事業者と連携を図り、事業執行に努めていく必要がある。